

99-290

問題文

75歳男性。アレルギー性鼻炎のため耳鼻科を受診後、保険薬局で以下の処方せんの調剤薬を受け取り、夕方から服薬を開始した。翌日午前中に、尿が出にくくなったと訴えて、この薬局に相談に来た。

(処方1)

クレマスチン錠 1 mg	1 回 1 錠 (1 日 2 錠)
	1 日 2 回 朝夕食後 14 日分

(処方2)

スプラタストトシル酸塩カプセル 50 mg	1 回 1 カプセル (1 日 3 カプセル)
	1 日 3 回 朝昼夕食後 14 日分

(処方3)

フルチカゾンプロピオン酸エステル点鼻液 50 μ g	28 噴霧用 1 本
	1 回各鼻腔に 1 噴霧 1 日 2 回

問290

薬剤師は処方薬による副作用を疑った。この薬局の薬剤師が担当医へ提案すべき内容として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 処方1を中止。
2. 処方1をクロルフェニラミン製剤へ変更。
3. 処方2を中止。
4. 処方2を減量。
5. 処方3を中止。

問291

この患者が病院を受診した。直腸診で、弾性があり硬い腫瘍が直腸前壁に触知された。最も疑われる疾病と、当該疾病の診断が確定したときの治療薬の組み合わせとして、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 直腸がん | フルオロウラシル |
| 2. 直腸がん | イリノテカン塩酸塩水和物 |
| 3. 前立腺肥大症 | デュタステリド |
| 4. 前立腺肥大症 | フルタミド |
| 5. 腎不全 | シラザプリル水和物 |
| 6. 腎不全 | ロサルタンカリウム |

解答

問290 : 1問291 : 3

解説

問290

尿が出にくくなったという訴えから、抗コリン作用による副作用が疑われます。処方の中で、抗コリン作用を有するのは、処方 1 のクレマスチンです。

選択肢 2 ですが

クロルフェニラミン製剤にはやはり抗コリン作用があるため、変更しても意味がないと考えられます。

以上より、選択肢 1 が正解です。

問291

疑われる疾病としては、直腸がんや前立腺肥大症が考えられます。選択肢 5,6 は誤りであると考えられます。

直腸がんの治療薬は、5-FU がキードラッグです。代表的なレジメンは、FOLFOX（5-FU+レボホリナート+オキサリプラチン）や FOLFIRI（5-FU+レボホリナート+イリノテカン）です。そのほかに、ベバシズマブ（アバスタ）やセツキシマブ（アービタックス）といった、分子標的薬も用いられます。

前立腺肥大症には、 $\alpha 1$ 遮断薬や、5 α 還元酵素阻害薬などが用いられます。デュタステリド（アボルブ）は、代表的な前立腺肥大症治療薬です。5 α 還元酵素阻害薬の一種です。

ちなみに、フルタミド（オダイン）は、前立腺がんの治療薬です。非ステロイド性の、抗アンドロゲン（男性ホルモン）薬です。よって、選択肢 4 は誤りです。

これらのことから

選択肢 1,2,3 が正解の候補と考えられます。

そして、この中から1つを選べ というのであれば

- ・患者の年代が 75 歳、男性であること（前立腺肥大 は、70歳では、約 80 % に見られます。ただし、全てが治療を必要とするわけではありません。）
- ・「直腸がんの治療薬」というのは、1 種類ではなくレジメンとして表現されること

を考慮すると、選択肢 3 がより適切であるといえます。

以上より、正解は 3 と考えられます。